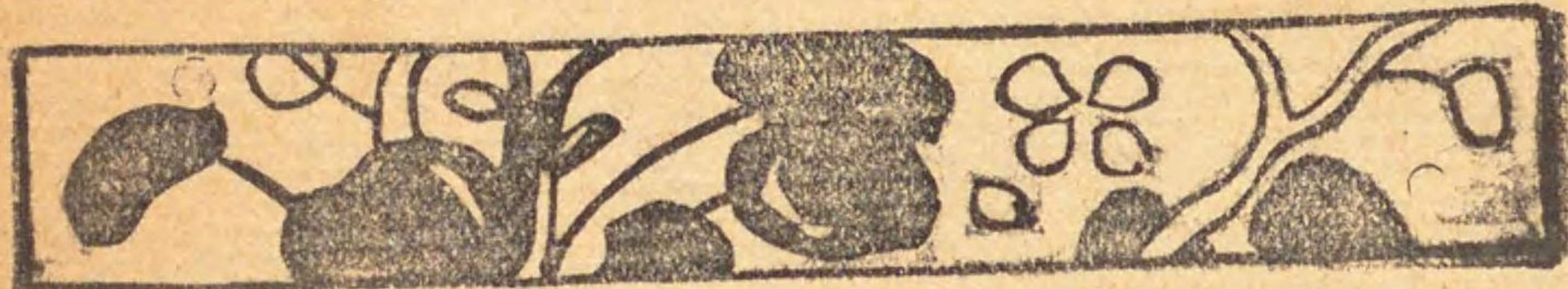




一同は夫から暫く繪馬堂の床几に腰をかけて、目の前に見ゆる道頓堀の方を見下し乍ら、昨夜先生に伴れて往つて戴いた千日前の事を話し合つて、東京の淺草より賑かだとか、活動寫眞は東京で觀たのばかりだとか互に評し合つてゐましたが、不意に花子さんが「先生大阪の名所はもつとあるのですか」とうかいひました。「ハイ未だ四天王寺と云ふ名高いお寺があります。聖徳太子といふ昔の皇太子がお建てになつたお寺です。其處を觀れば、お了ひに致しませう」

と先生はお答へなさいましたが、其時傍の床几に孫らしい子供を負つて居るお婆さんが居まして

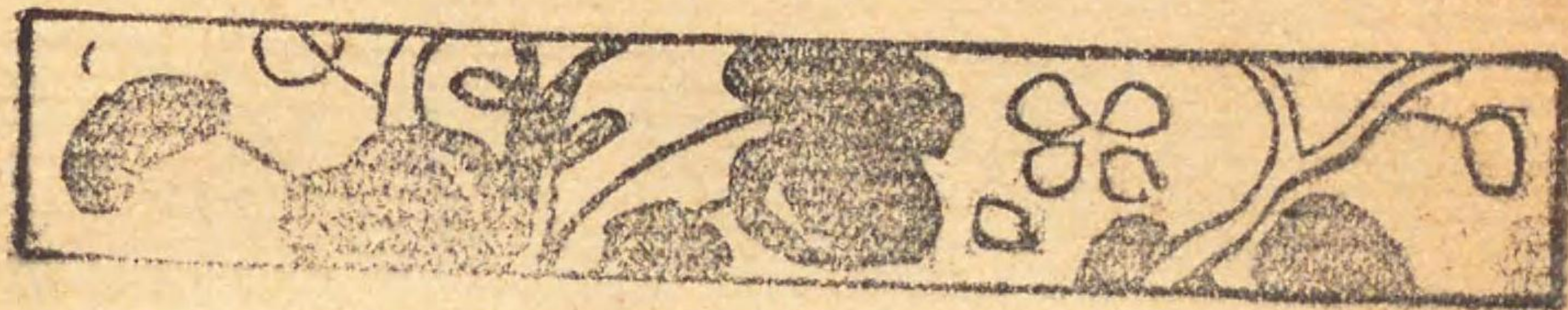
「貴方はん造幣へ嬢様方を伴れていておあげやしたか」



と聞きました。それで先生が「否」と仰やると

「さうでつかいな。そんなら是から伴れて往ておあげやす。貴方はん昔から大阪は日本の臺所と申してな、何でも商賣やお金の根原は皆大阪だす。皆さんが御綺麗な衣服買はうと思やしても、御金御本をお買ひ遊すのもお金、其お金は皆大阪の造幣局で出来るのでつせ、なア貴女はん、大阪は偉いもんでつせなア」

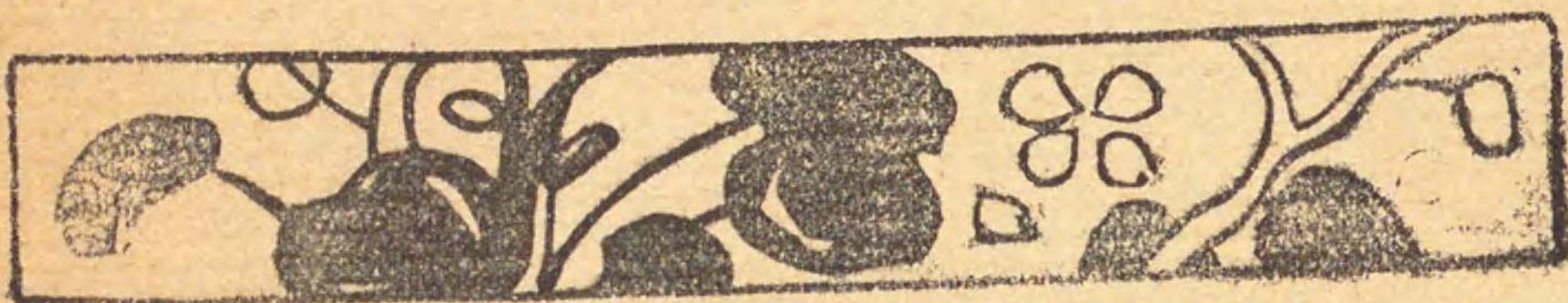
とお婆さんは造幣局の効能を獨で説き立てました。先生は流石にお静に聞いていらつしやいましたが、生徒達は聞馴れぬ大阪言葉が可笑いので、一人逃げ二人逃げて、皆彼方の方で轉げ廻つて笑つて居ました。



先生は「どうも難有うございました」とお婆さんにお禮を仰やつて、それから花子さん達に

「それでは皆様、仁徳帝の宮趾と住吉神社の参拜は明日にして、これから造幣局を見せて戴く事にしませう。今此のお方の仰つた通り、商業といふことに就ては、大阪は全く日本一の都會です。そして日本に唯一つしかない造幣局を持つて居るといふ事は、大阪が自慢してもよい事です。併しこれが爲め大阪の人の中には、無暗とお金の力ばかりを難有がつて、學問を疎そかにする傾きがございますのは、誠に慨かはしい事でございます」と言つてお聞かせなさいました。

一同が繪馬堂を出て大和橋通の段々を下りかゝるとお婆さんは下



口の處まで送つて来て「それでは嬢様方往といでやす。櫻の咲いてる時分やと本真に佳々のやがなア」と染々さう言ひました。

一同は造幣局から歸つて翌日住吉神社、濱寺などを見物した後、尙和歌の浦や淡路島、瀬戸内海へも参るつもりでしたが、追々正月が近くなるので、夫等の見物は翌年改めてする事にして、十二月一日の朝一番列車で、無事東京に歸りました。

少女パーク 終

明治四十四年十月十六日印
明治四十四年十月十九日發行

少女パーク奥附
（定價金四十錢）

著者 溝口白羊

發行者 東京市本郷區駒込東片町十番地 吉田正太郎

印刷者 東京市京橋區南小田原町二丁目十二番地 今井鐵次郎

印刷所 東京市京橋區南小田原町二丁目十二番地 今井印刷所

發行所 東京市本郷區駒込東片町十番地 本郷書院

振替口座一四九六一番



不許

複製

賣捌所

東京堂、至誠堂、上出屋、太洋堂、前川文榮閣、林平次郎、東海堂、北隆館、杉本書店、盛文館、京都東枝律、久留米菊竹、名古屋川瀨、長野西澤、金澤宇都宮、札幌富貴堂、鹿兒島吉田幸兵衛、大分甲斐治兵衛、前橋煥乎堂、秋田成見清兵衛、熊本金書堂、千葉多田屋、其他各書店○最寄賣捌店無之地は當院へ直接御注文を乞ふ

目書行發院書鄉本

與謝野鐵幹君 與謝野晶子君 合著	山川登美子君 增田まさ子君 與謝野晶子君 合作	佐藤芝峰先生著 英獨對譯	高橋菊衛合著 櫻井岩衛合著	尾上柴舟君著	越廼背山君著	文學士 工學士
毒	戀	小倉百首評釋	實用裁縫書	金	滑稽	滑稽
草	ころも		實用裁縫書	帆	文學	笑話
			普通部	高等部		
定價金五拾錢	定價金四拾錢	定價金四拾錢	定價金參拾五錢	定價金四拾錢	定價金廿五錢	定價金廿五錢

目書行發院書郷本

小島鳥水君著	鳥水文集 (最新刊)	定價 金七十五錢 郵稅 金八錢
文學士上田敏先生著	詩集 海潮音	定價 金壹圓 郵稅 金八錢
文學博士藤岡作太郎	異本山家集 附 西行論	定價 金八拾錢 郵稅 金八錢
幸田露伴先生序	夢見草	定價 金參拾錢 郵稅 金四錢
田中義成先生序	西吟新譯	定價 金參拾錢 郵稅 金四錢
文 學 士 小 山 內 薫 君 著	春鳥集	定價 金七拾錢 郵稅 金八錢
同	ユーゴーの詩	定價 金參拾錢 郵稅 金四錢
同	花の詩 (新刊)	定價 金五拾錢 郵稅 金六錢
文 學 士 小 原 無 絃 君 譯		

目書行發院書郷本

橫瀨夜雨君著	花守日記	定價 金六拾五錢 郵稅 金八錢
十 學 博 士 十 士	修養講話 (近刊)	
熊谷無漏君著	かぶさ俳句集	定價 金廿五錢 郵稅 金四錢
内藤鳴雲題	古今名家 俳句講話集	定價 金參拾錢 郵稅 金四錢
瓊音編	古今滑稽句集	定價 金貳拾五錢 郵稅 金四錢
白藻會編		
天生目杜南編		

目書行發院書鄉本

前田林外君撰訂	日本	民謠全集	前篇 後篇	定價 金各五拾錢
巖郷左工門編		やなぎだる		定價 金廿二錢
鳩箭子の著		自治療生活		定價 金四拾錢
	附高等學校一覽			
文 學 士 佐藤芝峰君著		筆のあと	近刊	
文 學 士 久保天隨君著	評釋	日本絶句選		定價 金參拾錢
楓村居士雄		日本名妓傳	近刊	郵稅 金四錢

目書行發院書鄉本

押川春浪著		世界冒險少年譚	(八版)	定價 金參拾錢
同	冒險小說	怪雲奇星	(九版)	定價 金四拾錢
同	奇談	絶島軍艦	(五版)	定價 金四拾五錢
同	武勇小説	人外魔境	(八版)	定價 金參拾五錢
同	冒險怪譚	幽靈旅館	(八版)	定價 金四拾錢
同	冒險小説	海島奇傑	(三版)	定價 金四拾五錢
同	冒險探險	奇男兒旅行	(六版)	定價 金四拾五錢
同	萬國	幽靈怪話	(三版)	定價 金四拾錢

阿武天風君譯

萬國神話集

定價未定
近刊

希臘神話を歐米文學の源泉として、將た又單にお伽噺として取扱ひしものは別にあ
り。本書は斯の如き部分的のものにあらずして一般的なり。要は唯神話として、世
の少年子女に、其何物なるやを知らしむれば足れり。是れ聽て本書の最も著しき特
色なり。加ふるに著者が多大の勢力を費して、希臘以外東西諸國の神話と共に收め
たれば、神話を知らんと欲する者には絶好の指針たるべし、讀め！ 讀め！ 就中
神秘の鎖鑰を破らんとする者は、必ず先づ本書を座右に備へざるべからず。

文學 土物集 梧水 探檢世界記者 增本河南 君共譯

本郷書院叢書

全部十二冊
四六刊美裝
彩密書挿入

▲定價一金卅五錢 郵稅六錢▼

本郷書院は泰西古今の名著珍籍奇書中より青年少年諸君の讀物として、或は勇壯に
或は珍怪なる冒險的且つ傳奇的なる、好著を選び、從來本院が出版せる斯道名家の
創作著述類と相俟つて讀者の耽誦に投せんと欲す、殊に譯者は當代に於ける此種の
文學に第一流の名を馳せつゝある梧水河南二家の筆に成れる逸品なれば、世の血性
に富み好奇心に飢へ、紛々たる蕪雜の書に倦みたる青年諸君並に一般愛書家の好評
を俟つ!!!

文學 土物集 梧水 探檢世界記者 增本河南 君共譯

第壹編 法螺吹小僧

定價金卅五錢
郵稅四錢

伊太利國にはほら吹小僧があつた、彼は無邪氣なる學生であるがよく／＼交際して

見るとほらも吹けば悪戯もするさうで、それが又頗る愛嬌があつて、伊太利の本國では大評判、ところが一人が見て面白い事は誰が見ても面白いもので、遂に泰西諸國にまでも持嘶された揚句の果てに、何が名著をと鴉の目鷹の目の譯者にも見知られ、さてこそ此處に現はれて、諸君にも御交際を願ふことになつた。坊ちゃんでも嬢ちゃんでも、お父さんでも兄さんでも姉さんでも、一人も多く読んで、一人も

多く、ほら吹小僧をお見知り願ひたい。
文學士物集梧水 君共譯
探檢世界記者 増本河南

第二編 アラビヤナイト

定價 金三十五錢
郵税 六錢

本編は千古の奇書として有名なるアラビヤナイト中より『魔人と商人』『水夫シンドバッドの七航海譚』及び『怪人と漁夫』の三話を抄譯したるものにし就中『水夫シンドバッドの七航海譚』の冒險的なるは他二話の傳奇的なると共に一讀拍案何人も快を喚び奇に驚くものあらん。

(以下續刊)

いたづら小僧著

奮笑日記

定價 四拾錢
郵税 六錢

讀んで面白く話して愉快聞いて可笑しく
奇且妙である不知不識して卷込まれて了
ふ内に涙あり涙の内に笑ひがある然も本
書の内容は眞面目である

植松美佐男君著

少女月見草

定價金參拾五錢
郵税金六錢

「古い少女小説の型を脱してゐるのと事實をそのまゝ、少しも装つたり偽はつたりしない事と背景に或るものを入れたのが此の月見草の他の少女小説より誇る所だと思ひます皆な私の周圍に行はれた事や見聞した事を小説と云ふ名の下に書いたもので」と著者は序文に云つてゐる、燃ゆるやうな情と、白銀の露より美しい涙と、若々しい血潮とで描かれた此の月見草は詩であります、歌でありますそして美しい繪であります、噫！血！情！涙！讀者諸嬢の血は必ず躍ります歡喜か悲哀か又は感謝か未だ二十歳に満たない著者は讀者諸嬢と共にうら若い春の甘い哀愁を味ふ事を望んでゐます、共に涙を流したいと云つてゐます、みなさん聲を上げて靜かに春を歌はふではありませんか。月見草は青春少女の華です。

少女世界主任 沼田笠峰君著

少女姉妹

定價 金參拾五錢
郵税 金六錢

「姉妹」は美しい友愛の情を描いた少女小説です。姉のまごころ、妹のやさしい心、互ひに愛し助け合ひつゝ、笑ひ、泣き、喜び勵むさまの、如何にうるはしいかを御覽下さい。想ふに、この書を読む少女諸子は、著者の同情ある筆に涙を流さずには居られません。速かに御一讀あれ！

沼田笠峰君著

少女お友だち

定價 金四拾錢
郵税 金六錢

植松美佐男君著

家庭少女小説

露子の運命

定價 金四拾錢
郵税 金六校

露子は運命論者ではありません、けれども悲惨な運命は此の可憐な少女露子にま
つわり付いてはなれませんが、露子の行く先には危険な運命の谷があります、露子の
歩く道には茨のやうな人間が澤山ゐて露子を苦しめます。噫！可憐な可憐な露子は
どんな運命の手に支配されるでしょうか情と血と涙と勇氣とでつゝられた露子の運
命を知りたいと思ふ人は此の書を繙いて下さい。十八歳までの今日を悉く少女の同
情に盡した著者が充溢した青春の熱血を注いで描いた長篇少女小説です、『月見草』
を読み是れを讀むと著者の眞價が分ります。

植松美佐男著

家庭少女小説

露子の運命後篇

定價 四拾錢
郵税 六錢

少女諸君のお待兼の續篇出たり？

露子の半生は若い血の叫びでした。胸に波打つ紅い血汐が露子をして、泣かせ、起ら
せそうして最後に氷のやうな短刀を握らせたのでした。若い處女の誇のために生さそ
の誇のために終つた一篇の哀史を讀んで下さい。紅は若い日の誇です。古代紫はな
つかしい思出です。みなさん？若い著者と一緒に「若人」として光榮ある露子の半生を
讚美しやうぢやアありませんか。

『少女』主筆 溝口白羊著

渡邊ヨヘイ畫

少女小品 さくら月

定價 金四拾五錢
郵税 金六錢

讀んでホロリとさせる可哀想な少女小説もあります、美しい春の香の烟るやうな印象の深い小品文もあります、お腹を抱へて笑ふやうな面白い對話もあります。これ等を集めて『少女小品』と名づけました。朧ろめく春の月夜の勾欄に、櫻草咲く春の野に、ひもこいたら、こんなに興味が深いでせう。

植松美佐男君著

滑稽新馬鹿大將 珍話

定價 金四拾錢
郵税 金六錢

讀者諸君の前へ突然現れた新馬鹿大將の次郎は先頃英國から歸化したばかりで、世界無類の腕白者です。喧嘩と滑稽は新馬鹿大將の生れつきと見へて、至る處で滑稽を演し喧嘩をする。是を讀んだ諸君が笑つて笑つて遂に笑ひ泣をしなかつたなら著者は讀者諸君の前で腹は切ぬと斷つて置く。

冒檢世界主任 河岡潮風著

書生界名物男

定價五拾錢 郵稅六錢

「書生々々と輕蔑するな、大臣參議もモト書生」……書生は英雄偉人の卵である。
千人に一人位の途法もない傑物がゐるのだ。學生通の著者が最も奇拔と認められた快書生
約五十人の逸話、奇行、冒檢譚を壯烈な筆法で記述した珍書はこれ。さア評判ぢや!!
評判ぢや!!

植松美佐男著

少女君影草

定價四拾錢 郵稅六錢

谷と谷との間の雜草の中を探して御覽なさい。白くすいろぐ小さな花を見出す事です。
う。野に住んで野の歌を戀う少女の花子はこの人知れず咲く淋しい鈴蘭が好でした。
君影草！なんと云ふ優しい名でせう。なつかしい名でせう君影草は深山鈴蘭とも云へ
ば谷間の姫百合とも云ひます。只谷と谷との間に咲く寂しい花だと思召せ。著者は自
己の藝術に進むために、この「君影草」を諸嬢の前に捧げて、永久に少女諸嬢とお別れ
するのです。されば著者の有つたけの努力はこの中に現はれてゐると思つて下さいま
せ。哀れな少女の運命を叙した長篇少女小説です。

目書行發院書郷本

本郷書院叢書第一編 文學士物集梧水 增本河河南共著	本郷書院叢書第二編 同共著	海軍少尉 阿武天風著	いたづら小僧著	文藝學士 物集梧水纂譯	河岡潮風著	松旭齋天一述	植松美佐男著
ほら吹小僧	アラビヤナイト	萬國神話集 (近刊)	奮笑日記	人肉質入裁判	書生界名物男	西洋手品種明し	新馬鹿大將
定價金卅五錢 郵税金四錢	定價金卅五錢 郵税金四錢	定價金四十錢 郵税金六錢	定價金四十錢 郵税金六錢	定價金四十錢 郵税金六錢	定價金五十錢 郵税金六錢	定價金二十五錢 郵税金四錢	定價金四十錢 郵税金四錢

目書行發院書郷本

植松美佐男著	沼田笠峰著	同	溝口白羊著	溝口白羊著	清水傳吉著	植松美佐男著	同
少女小説 月見草	少女小説 姉妹	少女小説 お友たち	少女小説 さくら月	少女小説 パーソク	少女小説 露子の運命 (後篇)	少女小説 露子の運命 (後篇)	少女小説 君影草
定價金卅五錢 郵税金六錢	定價金卅八錢 郵税金六錢	定價金四十錢 郵税金六錢	定價金四十錢 郵税金六錢	定價金三十五錢 郵税金六錢	定價金四十錢 郵税金六錢	定價金四十錢 郵税金六錢	定價金四十錢 郵税金六錢

本郷書院發賣書目

生田長江氏譯 ニイチエ作	生田長江氏著	田山花袋編 小栗風葉	小栗風葉著	真山青果著	生田長江著	金子薰園著	有朋、泣菫序 松山白羊著
ツアラトウストラ	外國文學研究法	二十八人集	風葉集	青果集	文學入門	和歌入門	新體詩入門
定價金貳圓三十錢 郵稅金十八錢	定價金五十錢 郵稅金六錢	定價金壹圓三十錢 郵稅金十二錢	定價金八十錢 郵稅金八錢	定價金八十錢 郵稅金八錢	定價金三十錢 郵稅金六錢	定價金四十錢 郵稅金六錢	定價金四十錢 郵稅金六錢

本郷書院發賣書目

金子薰園著	松原至文著	小林愛雄著	金子薰園著	生田長江著	風葉、春葉合述 秋聲、掬汀	長連恒著	田口掬汀著
新書翰文	小品文範	日記新文範	書簡文捷徑	新叙景文範	小說作法	源氏物語梗概	幻影
定價金三十錢 郵稅金四錢	定價金三十錢 郵稅金四錢	定價金三十錢 郵稅金四錢	定價金三十錢 郵稅金四錢	定價金三十錢 郵稅金四錢	定價金三十五錢 郵稅金四錢	定價金七十五錢 郵稅金八錢	定價金四十錢 郵稅金六錢

本鄉書院發賣書目

金子薰園著

小詩國

定價金二十五錢
郵稅金四錢

正宗白鳥著

二家族

定價金七十五錢
郵稅金十錢

佐々醒雪著

日本情史

定價金八十錢
郵稅金十錢

宇野秋阜編

俗語と難辭

定價金三十錢
郵稅金六錢

栖原萬壽著

美文範

定價金四十錢
郵稅金六錢

渡邊與平著

ヨハイ畫集

定價金七十五錢
郵稅金六錢

早見純一著

大隈伯爵國民讀本詳解

定價金三十錢
郵稅金六錢

星野女史著

女學生寶鑑

定價金二十五錢
郵稅金四錢

268
432

植松美佐男著

少女小説 月見草 定價三十五錢 郵稅六

溝口白羊著

少女小品 さくら月 定價四十錢 郵稅六